

Editorial Board

Editor-in-Chief	Professor	Minoru Ishii	(Environmental Sciences and Technology)
Editors	Professor	Naoya Kasai	(Applied Biochemistry)
	Professor	Mitunori Kiriha	(Bioinformatics)
	Associate Professor	Toshinobu Morikawa	(Plant Biosciences)
	Professor	Yoichi Nakamura	(Veterinary Science)

Scope: *The Scientific Report of the Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University* is official online journal of the Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University concerning to the disciplines in life and environmental sciences. One volume is annually uploading on Graduate School Library Home Page, containing articles (original and short research papers), reviews (doctor dissertation), notes and communication which were peer reviewed by anonymous referees or editorial board. One of the authors should be the professors or instructors of the Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Osaka Prefecture.

Note: *The Scientific Report of the Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University* is continued from the former periodicals, *The Scientific Report of the Graduate School of Agriculture and Biological Sciences, Osaka Prefecture University* (ISSN 1346-1575).

All correspondences on this issue should be addressed to the Dean of the Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Sakai City, Osaka 599-8531, Japan.
Copyright: the Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University.

投稿規定

1. 本誌は大阪府立大学生命環境科学研究科で行われた学術研究の報告誌とする。
 2. 投稿資格は、生命環境科学研究科に所属する教員、教員を含む共同研究者（学生を含む）および編集委員会で認めた者とする。
 3. 記事は、原著論文、総説、短報および資料とし、いずれも未発表のものに限る。
 4. 原著論文は新しい研究成果を記述した論文、総説は論点を絞り、適切で複数の論文を引用し、著者の主張をよくまとめたものとする。学位申請論文の抄録は総説と取り扱う。短報は簡潔な研究成果を述べるもので再掲載を前提としない。資料は、データや記録写真など、研究成果として公表に値するものとする。
 5. すべての記事は、欧文または日本語とする。ただし、その他の言語で書くことが妥当と編集委員会で判断される場合はこの限りでない。
 6. すべての原稿は編集委員および編集委員会が依頼した審査員の審査を受ける。原著論文は、2名以上の審査員の審査結果をもとに編集委員会において掲載の可否を決定する。掲載可と判定された原稿はすべて返却しない。掲載不可と判定された原稿は、委員会よりの理由を付して著者へ返却する。
 7. 投稿論文は、別に定める執筆要項に従って作成し、正本1部および審査用のコピー1部（原著論文では2部）を随時、編集委員会へ提出する。
 8. 論文の長さ：原著論文は原則として刷り上がり10ページ以内、総説は原則として14ページ以内、短報は4ページ以内、資料は6ページ以内とする。製版にあたり特殊な作業を必要とする場合はその経費を著者負担として認めることがある。
 9. 冊子体および別刷りは作成しない。必要とする場合は全額著者負担とする。
 10. 投稿原稿が編集委員会へ提出された日を受領日とし、審査員よりの評定を受け編集委員長が掲載可とした日を受理日とする。
 11. 編集委員長は、毎年、11月30日までに受理と判定された記事を電子化し、翌年3月までにonline出版する。
 12. 記事の掲載順は、記事の分類ごとに受理日の順番とする。原則として原著論文、短報、総説、資料の順とするが、詳細は編集委員会の判断にゆだねる。
 13. 掲載された記事のコピーライト（著作権）は、編集委員会（生命環境科学研究科）に所属するものとする。
 14. その他 編集に関するその他の問題については、編集委員会においてその都度協議する。
-

Instructions for Authors 執筆要領

I. 欧文原稿の作成方法

(原著論文original paper 及びその他の記事)

1. A 4 版 (210mm×297mm) またはこれに近い大きさのタイプ用紙に、ダブルスペースで印字する。用紙の周囲に約 3 cm の余白を残す。
2. 原稿の第 1 ページには、論文題名、著者名、所属を記載し、下端にRunning Title (奇数ページの上に見出しとして印刷される) を以下のように記載する。
A) 論文題名：冠詞、前置詞、接続詞を除く語の頭文字を大文字とする (学名など規定のある場合を除く)。第○報の場合には、1, 2, 3 のようにする。
記載例：
The Waltzing Mutant in the Shrew (*Suncus murinus*, Insectivora) Characterized by the Circling and Head-Shaking Behaviors 1. Inheritance and Breeding.
B) 著者名：名、姓の順 (外国人が著者の場合はその国の習慣に従う) にローマ字で表記する。著者が 2 名の場合は “and” でつなぎ、3 名以上の場合は最後の著者以外を “,” でつなぎ、最後の著者を “and” でつなぐ。
記載例：
Ichiro Kawasaki and Jiro Yamada (著者が 2 名の場合)
Ichiro Kawasaki, Jiro Yamada and Saburo Ogawa (著者が 3 名以上の場合)
C) 所属研究室 (研究グループ) 名：Laboratory of …, Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University の形式で記載する。
D) Running Title：著者名は姓のみを記し、著者が 3 名以上の場合には第 1 署名のみを記して、第 2 著者以下を *et al.* で表す。略表題は 50 文字以内とし、第○報は 1, 2… のように記し、副題はつけない。
記載例：
H. Kawasaki *et al.*: Waltzing Behavioral Mutant of *Suncus murinus*-1
3. 原稿の第 2 ページには、原著論文の場合には 250 語以内、総説、学位請求論文の場合には 1,000 語程度の英文 Abstract を記載する。短報および資料では Abstract を省略できる。
4. 本文は第 3 ページからタイプする。本文中の引用文献は、適切な個所に、(Yamaguchi, 1995), (Abe *et al.*, 1995a; Yamaguchi and Mochioka, 1996) のように記入する。
5. 図・表の表題は Fig 1. Location of … および Table 2. Various cultivars of … のように記入し、図の表題は図の下に、表の表題は表の上に記載する。注や説明は図、表ともに図表の下に記す。
図は白色ケント紙、淡青色の方眼紙またはトレーシングペーパー (白色の台紙をつける) を用い、墨入れを行う。記入する文字、符号は鉛筆書きでよい。図の縮小率 (長さ) を特に希望する場合は

欄外に赤字で記す。

図表の挿入場所は本文の該当場所の右欄外に赤字で明記する。

6. 引用文献 (References) は著者名をアルファベット順に配列し、次の例にならって記載する。著者名、表題、誌名 (書名) ととも省略しない。
記載例：
Oda M., Dosai M., Ikeda H., and Furukawa H. 2002. Causes of low survival in cucumber (*Cucumis sativus* L.) plants grafted onto pumpkin (*Cucurbita moschata* Duch.) rootstocks by horizontal-cut grafting at the center of the hypocotyl. Sci. Rep. Grad. Agric. Sch. Biol. Sci., Osaka Pref. Univ., **53**, 1-6. (in Japanese) (一般論文の引用例)
Snedecor G. W. 1961. Statistical Methods. Iowa State Univ. Press, Iowa, p.13. (単行本の 1 ページのみを引用した例)
Tanaka T. 1977. Nogyo Mondai. Fudaisha Sakai, 215pp. (in Japanese) (単行本全体を参考にした例)
Hendricks S. B. and Bortwhick H. A. 1963. Control of plant growth by light. In “Environmental Control of Plant Growth” (ed. Evans L.T.). Academic Press, New York, 233-264. (編集者の有る本の 1 章を引用した例)
7. その他、原稿のスタイルとレイアウトについては、最新の号を参照すること。

II. 和文原稿の作成方法

1. ワードプロセッサを用いて A 4 版横書き原稿用紙に明朝体で記載する。
2. 記述は新かなづかいに従い、学術用語以外は原則として当用漢字を用いる。句読点は「 , , 。」を用いる。外国語は片仮名を用い、人名その他でローマ字を記入する場合はローマン体 (普通の活字体) を用いる。動植物などの学名はイタリック体指定とし、和名は片仮名書きとする。
3. 原稿の第 1 ページには論文題名、著者名、所属 (連絡先) ならびにそれらの英訳を記載し、下端に簡略表題 Running Title を記す。英訳および簡略表題の記載は英文原稿の作成方法に従う。
4. 原稿の第 2 ページ以降には、摘要 (末尾にキーワードをつける)、英文 Abstract (末尾に Key Words をつける)、目次、本文の順にそれぞれ改ページして記載する。
5. 図・表および欧文の引用文献は、欧文原稿の作成方法に従って記載する。和文の引用文献の記載は、下記の例に準じる。
記載例：
白河紀男 1970. 除草剤 CMMP に関する研究 (第 4 報). 特に作用機作について. 園学雑, 38, 193-201.
平井篤造・鈴木直治 1963. 植物病理の生化学 (後編). 農業技術協会, 155-180.